

議案第93号
「雪国」日本画購入契約の
締結について

絵画購入契約に対する討論 無記名投票の結果9対6で可決

反対 討論 南雲和夫

3月議会においての予算審議、6、9月議会での質議と町民の声、意見を総括し、議案提出において執行部内で意志統一が図られていないこと。
○現在の経済情勢において費用対効果が町民全体の利益として供与されにくいこと。
○今後の計画と費用、特に資金計画が不明確であること。
○町民の多くが望まない購入に対して理解が得られていないこと。
以上の理由から絵画購入の執行に反対をします。

今後の行政運営は限られた予算での執行となり、その合意を得る上で町民の理解と協力が必要不可欠となっております。独自の町づくりを目指す町政にとつて何を持つて政策形成をし決定を成していくのか、多くの課題と責任をかかえている問題でもあり、ます。
観光客の誘致を目的となりつつあるイベント事業が、活動を通じ、価値観を共有できる湯沢の教育、観光に寄与する文化事業となることを望み、その理由と意見を持って反対といたします。

賛成 討論 今村定一

人生55年これほどにも一つの決断に悩み苦しんだ事はありません。それほど議会人としての重い決断であると受け止めていきます。
議会改選後今日までに、絵画そのものを見て知る事はあっても、真正面から絵画について論議されてこなかったのも事実と認識しています。

わが町は合併しない町づくりを進めていく町長の姿勢に理解を示しつつも現在の財政状況を考えた時、なぜ今絵を買う必要があるのか？そう考えるのも事実であります。今購入に踏み切るより、雪国湯沢の文化継承と誰しもが理解を示すまで先送りする事が肝要と思いましたが、その手法も考えも通らない事と知りました。経緯や手法で反対するより、非難されても将来良い選択だったと感じていただける努力をして行く事が議会人としての選択と決めました。当国展と童画展の絵画で文化の香り高い町づくりに生かされる事を願って賛成と致します。

反対 討論 佐藤守正

昨夏、雪国館で再度この絵を展示し、町民に入場券を配付してまで観覧を呼びかけたが132名しか見に来てもらえなかった。また公民館報、ゆきぐにーでこの絵を紹介し、町民にアンケートを求めたが、それに応えた町民は、人もいなかった。故に、町民はこの問題に関心を持っていないのだと町長は言う。

そうではない。町民の関心はそこにはないのだ。いい絵だったら買ってもいいとか、つまらない絵だから買わないのは反対、という所に町民の問題意識があるのではないのだ。町民から集めた税金を、どういうことに使うのかが問題なのだ。他に使い方がたくさんあるのに、そこには使わずに絵を買う。そういう町長の姿勢に対して、人ひとりの議員がどういう態度をとるのかに関心が集まっているのだ。
各議員がどういう表決をしたのかを報告してほしい、という沢山の要請を私は受けている。それがわかる形で決めてほしいと思う。議員というのは、それぞれの議案にどういう態度をとったのか、町民にきちんと報告する義務があるはずだからだ。私は反対である。

賛成 討論 柿崎直治

絵画のような美術作品の評価は一般商品と異なりその作品が持っている芸術的価値、及びそれらがもたらす波及的付加価値によって決定されるものと思います。
今回購入予定の絵画は文化功労者である大山忠作先生をはじめとして、日本芸術院会員の岩沢重夫先生、川端康成が絶賛した牧進先生など、現代日本画を代表する諸先生方が川端文学の「雪国」のために、強いては我が湯沢町のために、意欲的に取り組みだした力作であります。

世界中に知られたこの名作と縁深い作品群を所蔵、展示することは、川上四郎童画集と共に我が町から日本全国、世界へ発信できる優れた文化価値を持つものであり、他の自治体には決して真似ることのできない独自性として観光行政に大きな付加価値をもたらすものと確信しております。
長野県小布町の葛飾北斎美術館、伊香保町の竹久夢二美術館、など地方自治体も優れた美術館を有し観光行政に力を注いでおります。今後各議会がなすべきことは、観光立町の議案として、人、人が湯沢を訪れる観光客に胸を張って誇れる美術館建設を真剣に考え、そしてそのために人々に前向きな議論を展開する事ではないでしょうか。

反対 討論 半沢利貞

千万観光を誇った町であるが、バブル崩壊後衰退の一途をたどり、予約の電話もさっぱり鳴らず、加えて暖冬少雪も手伝って充分な降雪がなければキャンセルの続出は避けられない。
前回の議会で担当課長は小説「雪国」を画家に渡したとし、場面を指定してはいないが、依頼したとも考えられる。説明書きを見なければ、勸進帳、や「雪中火事」「天の河」等はわけが解らない。絵が完成すれば買わないわけにいかない。商行為、契約行為であり不可解の点が多い。
塩沢農協との合併で農家の出資額は50%削減となり、今回の絵画購入で納税者が負担するよく税を払う気にならない。18億の滞納が20億になる心配もある。議会に対し不信と不満が増大する。

絵画の購入で門前市をなす程、客の増大は考えにくい。住民の立場に立って現状を把握したなかで判断すべきものと考え、反対する。

賛成 討論 田村正幸

11月21日、第35回日展を見に上野の東京都立美術館に行つてまいりました。賛成者として、自分自身の言動、発言に責任を持つためであります。

反対者の中に挿絵で力作ではないという意見があります。決して、そうではないということ、日本画壇における画家の地位を確認し、湯沢町の将来にとつて大きな財産になると確信をいたしました。

財政状況が厳しいことはご承知のとおりであります。介護保険料が29%約1万円値上がりを行いました。絵画購入費をこれに当てるといふ声があります。しかしながら湯沢町の高齢化率は24%、2千616人おりまだまだ増加をいたします。

介護、医療、保険については、行政としてきちんと対応をしていかなければなりません。与えられた財源、体力に見合う中でそれぞれに口配りをしながら、行政運営を行つていかなければならないと考えています。文化や社会基盤の整備等々については、スポット的に見るのではなく、ツールで判断をするべきです。子供たちの将来と教育・文化、それらとともに観光産業の中で役に立つていくものと考え賛成いたします。